

韓国の新聞社及び通信会社が北陸総合通信局長に南相馬チャンネルの取組などを取材

平成 24 年 1 月 27 日、韓国のネイル新聞（韓国放送通信委員会記者会幹事） コ・ソンス次長、月刊朝鮮 ソ・チョリン次長、KT Powertel（株）（MCA サービス事業者） パク・ホンヨン社長、ソ・ジフン常務（広報室長）等 5 名が、齊藤一雅北陸総合通信局長を訪問し、南相馬チャンネルの取組などを取材しました。

訪問団からは、南相馬チャンネルに取り組んだきっかけ、コンテンツの制作体制、政府の支援措置等について質問があり、齊藤局長は、各地に避難した被災者に情報を届ける「南相馬チャンネルの全国展開」を経て「東日本復興チャンネル」へ発展させる今後の取組などを説明しました。その後、訪問団は、（株）ヨーズマーに移動し、実際の南相馬チャンネルを視聴しながら、野口高志代表取締役から、視聴方法、番組内容、技術的な仕組み等について説明を受けました。

訪問団からは、「東日本大震災の経験と教訓から生まれた南相馬チャンネルの取組は、今後、世界各地で発生する災害においても、遠隔地の被災者に「ふるさとの現状と展望」を伝えるとともに、世界に情報を発信する新しいメディアのモデルになる。」との感想が述べられました。

訪問団は、金沢への来訪に先立ち、平成 24 年 1 月 25 日から 26 日までの間、（財）移動無線センター（東京）で MCA の災害関連通信ネットワークの運用状況、東北総合通信局等（仙台市）で東日本大震災の対応等を調査しました。



北陸総合通信局において、訪問団が齊藤局長（左から 3 人目）に南相馬チャンネルの取組などを取材



（株）ヨーズマーにおいて、野口代表取締役（右から 3 人目）が、南相馬チャンネルをデモしながら、視聴方法、番組内容、避難者の反響等を説明